2026_1105「オーロラとかんむり座」日々の理科 4470 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

スウェーデン北部、北極圏の小さな村ポルユス。その駅前に設置した自動撮影カメラが、オーロラと星座の美しい競演をとらえました。夜空を横切る鮮やかな緑色のオーロラ。その左側、写真中央の街灯柱の右上あたりに、小さな星々が半円形に並んでいるのがわかるでしょうか。これが「かんむり座」です。まるで夜空に浮かぶ王冠が、オーロラの緑色のベールをまとっているようにも見えます。

かんむり座は、春から夏にかけて見やすくなる北天の小さな星座です。七つほどの星が描く半円形の並びが特徴で、その形は日本では「お椀」にもたとえられます。最も明るい星は２等星のアルフェッカ。一等星こそありませんが、整った星の配列は印象的で、一度覚えると見つけやすい星座です。ギリシャ神話では、酒神ディオニュソスがアリアドネに贈った冠に由来すると伝えられています。

かんむり座の赤緯はおよそ＋30 度付近。北緯 67 度に位置するポルユスでは、地平線下に沈まない「周極星座」の一つになります。日本では季節によって見える時間帯が変わるこの星座も、ここでは一年中、北の空を巡り続けているのです。写真では、駅前の静かな湖と線路跡の上に、巨大なオーロラが広がっています。その圧倒的な光の帯に負けることなく、小さなかんむり座も見事に自己主張しています。北極圏の夜空ならではの、何とも贅沢な一瞬です。

（2026 年 11 月上旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）

